

## 演題

# 2

(10:30~10:45)

## 最終補綴物を無調整装着するための調節彎曲の咬合採得アプローチ

○ 山口 栄二 (歯科技工士)

足利セラミックラボラトリー仙台事業所

**はじめに：**下顎骨は、筋につり下げられた状態で宙づりになっており、顎位は偏位しやすい。そこで、今回、簡易的で適切な咬合採得を行うために、4点ジグの咬合採得装置(EASYセントリックアタッチメント)を考案し試作を行った。臨床に於いて、良好な結果を得たので報告したい。

**方法：**咬合採得を、垂直的關係と水平的關係の2回に分けて1回目の咬合採得で、垂直的關係をロー堤BTで決定する。2回目の咬合採得で、咬合堤の上顎咬合平面にWAX固定したフラットテーブルと下顎咬合堤にWAX固定した咬合支持4点ジグを用いて、急速タッピング法をおこなう。下顎咬合堤の4点ジグを咬合調整することにより、三次元的に咬合採得をおこなう。

**結果：**対象者20名の口腔内装着で、全て微調整のみで咬合安定が得られた。

**考察：**EASYセントリックアタッチメントは、垂直的關係が点状レジンBTの咬合調整で水平的關係は筋肉位の咬合採得になるため、最も安定する顎の回轉中心が簡便に採得できる。